

パトロールログの記入方法

◆ 遊泳条件

朝の段階での遊泳条件を記入し、途中で変更があった場合はその時間を含め記入する。

◆ 潮汐

朝から順に干潮、満潮の時刻及び潮位を記入する。なお、潮汐表に関しては各自で入手すること。

(入手先：インターネット、新聞、書籍 等)

◆ 気象・海象等

1日3回、午前9時、正午、午後3時に計測する。

天 気：目視により観測し、気象庁天気種類表（表-1）で分類、表記する。

気 温：日陰の風通しの良い場所に気温計を設置し、測定する。数値は10分の1℃まで読みとる。毎日定点で測定する（例：23.0℃）。

水 温：水深1.5m程度の場所で水面から約0.5mの深さに水温計を1分以上放置し、観測する。数値は10分の1℃まで読みとる。毎日定点で測定するが、河口部は河川の影響があるので避ける。

風 向：風向計や吹き流し及び方位磁石を用いて観測する。方位は16方位とする。なお、風が吹いてくる方位が風向である（例：南南西）。

風 力：目視で観測し、ビューフォート風力階級表（表-2）により測定、表記する。

波 高：目視により碎波点の波高を数波観測し、その平均的な波高を0.1m単位（10cm）で記録する。

利用者数：測定する場合は、利用者の分布が平均的な位置の幅10mの間にいる利用者の数を水中も含めて測定し、海岸の長さで乗ずる。

◆ パトロール日誌

その日のパトロール内容を記入する。

◆ アクシデント数

レ ス キ ュ ー：Preventive Action及びEmergency Careの数を記入する。

Preventive Action＝救助した時に意識がある（反応がある・目を開ける）※1

Emergency Care＝救助した時に意識がない（反応がない・目を開けない）※2

レスキュー器材でピックアップしたが浜まで運ぶに至らなかった者や、ボードやチューブなどにつかまらせて休ませた者などもPAに含む

※1、※2 PA、ECを意識レベルJCSで示すとPA＝JCSⅠ～Ⅱ桁（何らかの刺激で目を開ける）、EC＝JCSⅢ桁（刺激で目を開けない）となります。

Emergency Care「心停止」の場合（CPRを実施した場合）の内訳

- ・水浴場での心拍再開：ライフセーバーの救護活動により水浴場で心拍再開が確認された場合に記入。
- ・救急隊引継ぎ後の心拍再開：救急隊への引継ぎ後（搬送先病院含む）に心拍再開が確認された場合に記入する。引継ぎ先消防署等に可能な範囲で問い合わせ確認する。
- ・死亡：引継ぎ先消防署等に可能な範囲で問い合わせ確認する（ライフセーバーは死亡の判断はできません。必ず医師又は警察・消防の判断を確認してください）。
- ・不明：消防署や病院から回答を得られない場合に記入する。

(補足)

心肺停止後の心拍再開について、ウツタイン統計※3では直後に心拍再開したかどうかと合わせて、発生から1か月後の生存率および1か月後の社会復帰率を指標としています。心肺蘇生実施後の傷病者の予後について、連携する地域の消防等から情報を入手できるように努めてください。これらの情報を得られた場合にはレスキューレポートに詳細を記入するようにしてください。

※3ウツタイン様式とは…病院外の心肺停止症例を対象にした消防、医療機関で統一された記録様式。

ファーストエイド：けがの応急手当、傷の簡単な消毒や絆創膏をあげただけ等の軽いものは、ログ及びレポートへの記入の必要はない。

迷子：取り扱い迷子数を記入する。

救急車要請数：救急車要請をした数を記入する。レスキューレポートを合わせて記入する。

海上保安庁対応数：海上保安庁が対応した数を記入する。

消防救助対応数：消防の救助隊が対応した数を記入する。救急隊と救助隊どちらも出動した事例では、「救急車要請数」と両方カウントする。

警察対応数：警察が対応した数を記入する。レスキュー、救護に関わらない対応（浜でのトラブル、アクシデント等への対応）についても記入する

未然事故防止数：Preventive Actionに至る前に、未然に事故を防止した数を記入する。

例）・危険箇所に入水しようとする遊泳客に直接声をかけ安全箇所へ移動させた

・リップカレントに流されかけている遊泳客が、ライフセーバーの声かけにより自力で安全な場所まで移動した

・遊泳区域外にて入水している遊泳客に拡声器を使用し移動を促した

* 拡声器、放送機材等での information は含まれません

1日の利用者数：海水浴場管理責任者の公式数を記入する。

◆ パトロールメンバー

その日に勤務について全員の役職、氏名を記入する。

◆ 申し送り及び特記事項

翌日への申し送り事項や器材の不足、破損等、または特別な行事やアクシデントがあった場合に記入する。

特記事項がない場合は代表者の感想等でも可。

地形・海象条件などは必要に応じて図示しても可。

気象庁天気種類表（表-1）

種類番号	天気種類	説明
1	快晴	雲量が1以下の状態
2	晴	雲量が2以上8以下の状態
3	薄曇	雲量が9以上で、巻雲、巻積雲または巻層雲がみかけ上もっとも多い状態
4	曇	雲量が9以上で、高積雲、高層雲、乱層雲、層積雲、層雲、積雲または積乱雲がみかけ上もっとも多い状態
5	煙霧	煙霧、塵煙霧（ちりえんむ）、黄砂、煙または降灰があつて、そのために視程が1km未満になっているか、視程が1km以上であっても全天がおおわれている状態
6	砂じんあらし	砂じんあらしがあつて、そのため視程が1km未満になっている状態
7	地吹雪	高い地吹雪があつて、そのため視程が1km未満になっている状態
8	霧	霧または氷霧があつて、そのため視程が1km未満になっている状態
9	霧雨	霧雨がふっている状態
10	雨	雨がふっている状態
11	みぞれ	みぞれがふっている状態
12	雪	雪、霧雪または細氷がふっている状態
13	あられ	雪あられ、氷あられまたは凍雨がふっている状態
14	ひょう	ひょうがふっている状態
15	雷	雷電または雷鳴がある状態

ビューフォート風力階級表(表-2)

風力階級	和名	英語名	陸上基準説明	海上基準説明	風速
0	平穏	Calm	静穏。煙はまっすぐに昇る。	鏡のような海面。	0.0-0.2
1	至軽風	Light air	風向きは煙がなびくのでわかるが、風見には感じない。	鱗のようなさざ波ができるが、波頭に泡はない。	0.3-1.5
2	軽風	Light breeze	顔に風を感じる。木の葉が動く。風見も動きだす。	小波の小さいもので、まだ短いがはっきりしてくる。波頭は滑らかに見え、砕けていない。	1.6-3.3
3	軟風	Gentle breeze	木の葉や細かい小枝がたえず動く。軽く旗が開く。	小波の大きいものは波頭が砕けはじめる。泡はガラスのように見える。所々に白波が現れることがある。何種類かのディンギーはプレーニングはじめる。	3.4-5.4
4	和風	Moderate breeze	砂埃がたち、紙片が舞い上がる。小枝が動く。	波の小さいもので長くなる。白波がかなり多くなる。多くの種類のディンギーはプレーニングできる。	5.5-7.9
5	疾風	Fresh breeze	葉のある灌木がゆれはじめる。池や沼の水面に波頭がたつ。	波の中位のもので、一層はっきりして長くなる。白波がたくさんあらわれる。(しぶきを生じることもある)	8.0-10.7
6	雄風	Strong breeze	大枝が動く。電線が鳴る。傘はさしにくい。	波の大きいものができはじめる。いたる所で白く泡立った波頭の範囲が一層広がる。(しぶきを生じることが多い) どのディンギーも上りのコースで、突風のきたときに、シートをゆるめなければならぬ。	10.8-13.8
7	強風	Near gale	樹木全体がゆれる。風に向かっては歩きにくい。	波はますます大きくなり、波頭が砕けてきた白い泡は、筋を引いて風下に吹き流されはじめる。	13.9-17.1
8	疾強風	Gale	小枝が折れる。風に向かっては歩けない。	大波のやや小さいもので、長さが長くなる。波頭の端は砕けて水煙となりはじめる。泡は明瞭な筋を引いて風下に吹き流される。ほとんどのディンギー帆走不能。	17.2-20.7
9	大強風	Strong gale	人家にわずかの損害がおこる。煙突が倒れ、瓦がはがれる。	大波。泡は濃い筋を引いて風下に吹き流される。波頭はのめり崩れ落ち、逆巻きはじめる。しぶきのために視程が損なわれることもある。	20.8-24.4
10	全強風	Storm	陸地の内部ではめずらしい。樹木が根こそぎになる。人家に大損害がおこる。	波頭が長くのしかかるような非常に高い大波。大きな塊となった泡は濃い白色の筋を引いて、風下に吹き流される。海面は全体として白く見える。海面は長い白色の泡の塊で完全に覆われる。波の崩れ方は激しく、衝撃的となる。波頭は吹き飛ばされて水煙となり視界も損なわれる。	24.5-28.4
11	暴風	Violent storm	めったに起こらない広い範囲の破壊を伴う。	山のように高い大波。(中小船舶は波の陰に見えなくなることもある)海面は風下に吹き流された長い白色の泡の塊で完全に覆われる。いたる所で波頭の端が吹き飛ばされて水煙となる。視程は損なわれる。大気は泡としぶきで充満する。	28.5-32.7
12	颱風	Hurricane			32.8以上